

ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.4

広島交響楽団
プレミアム・コンサート in 倉敷

2024.5/26[日] 15:00開演
倉敷市民会館 ホール

ごあいさつ

この度は「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.4 広島交響楽団 プレミアム・コンサート in 倉敷」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは、京都に本社を置く半導体・電子部品メーカーであるローム株式会社および創業者の佐藤研一郎(1931年～2020年)が中心となって1991年に設立され、若手音楽家の育成やコンサート支援など音楽文化の普及と発展のためさまざまな活動を行っており、2021年に設立30周年を迎えました。

「ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT」は設立30周年を記念し、より多くの方に音楽をお届けするために各地域のオーケストラとともに全国各地でコンサートを開催するプロジェクトとなっております。

コンサートではローム ミュージック ファンデーションが過去に若手音楽家育成事業でかかわり、現在国内外で活躍する音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の出演や岩代太郎氏に作曲していただきました設立30周年記念委嘱作品の演奏など華やかなプログラムをお届けします。

素晴らしい音楽家たちが生み出す上質な音楽のひと時をお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
ローム株式会社

PROGRAM

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

岩代 太郎／東風慈音ノ章

Rohm Music Foundation 30th Anniversary Work

Taro Iwashiro/The Chapter of KOCHI-JION

F.メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64

F.Mendelssohn/Violin Concerto in E Minor Op.64

- I アレグロ・モルト・アパシオナート
Allegro molto appassionato
- II アンダンテ
Andante
- III アレグレット・ノン・トロポ ～ アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
Allegretto non troppo – Allegro molto vivace

—休憩20分—

10分でわかる「ムソルグスキー／組曲“展覧会の絵”」—構成:新井鷗子—

Knowing <M.Mussorgsky/Suites“Tableaux d’une Exposition”> in 10 minutes – Script:Oko Arai –

M.ムソルグスキー(M.ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」

M.Mussorgsky(Arr.M.Ravel)/Suites“Tableaux d’une Exposition”

指揮:広上 淳一 Conductor:Junichi Hirokami

ヴァイオリン:神尾 真由子 Violin:Mayuko Kamio

管弦楽:広島交響楽団 Orchestra:Hiroshima Symphony Orchestra

司会:朝岡 聡 MC:Satoshi Asaoka

MESSAGE & PROFILE

ローム ミュージック ファンデーション設立30周年記念 委嘱作品

東風慈音ノ章

公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションからの

ご依頼を賜り光栄に存じます。

委嘱を賜った際、

「芸術性を探求するがゆえの難解かつコンテンツポラリーなアプローチではなく
万人にとって親しみやすい曲調を基本として欲しい」

とのご要望を伺いました。

重ねて、

当公益財団法人が

長年に渡り音楽界の裾野を広げる為の文化貢献に寄与してきた実績や、
今後に向けた展望も鑑み、

「プロフェッショナルなオーケストラによる演奏プログラムとしての作品性」
ならびに、

「アマチュア・オーケストラにもご活用戴ける音楽性」
とのバランスを心掛けました。

演奏における難易度も、過度に上げ過ぎないよう配慮いたしました。

日頃から

「教育と文化が国の将来(カタチ)を創り出してゆく」

と信じている私にとって、

この度の御縁は身に余る喜びです。

今一度、御尽力を賜った関係者の皆様へ、

心からの御礼を申し上げたく存じます。

分断された世界において、

「音楽は心在る場所に宿る」と信じております。

2022年12月

岩代 太郎



©Rowland Kirishima

岩代 太郎 Taro Iwashiro (作曲)

1965年東京都出身。東京芸術大学音楽学部作曲科首席卒業、同大学院修士課程首席修了。
在学中は南弘明、近藤譲、松下功、黛敏郎各氏に師事。'91年、修了作品「TO THE FARTHEST LAND
OF THE WORLD(世界のいちばん遠い土地へ)」がシルクロード管弦楽国際作曲コンクールにて
最優秀賞を受賞。同曲は東京芸術大学資料館に永久保存されている。

以後、テレビ・映画・アニメ・舞台など幅広いジャンルで活躍。'99年、TVドラマ「WITH LOVE」のサン
トラ盤「ONCE IN A BLUE MOON」で日本ゴールドディスク大賞(インストゥルメンタル部門)を受賞。
'00年、NHK大河ドラマ「葵 徳川三代」ではスケール感のある壮大なオーケストレーションを披露し、若手
実力派として認められる。'03、「殺人の追憶」を担当し、アジアはもとより世界から高い評価を得る。'09
年、「Red Cliff Part1」で香港金像獎最優秀音楽賞を受賞。「Red Cliff」はPart1&2共に、国内にお
けるアジア映画の興行成績を塗りかえる大ヒットを記録した。'08年北京オリンピックのシンクロナイズ
ド・スイミングの音楽や、'09年11月に行われた「天皇陛下御即位20年国民祭典」での奉祝曲「太陽の
国」の作曲、'10年からのJRA日本中央競馬会のG1&G2&重賞レースの本馬場入場曲の作曲、'15年4
月には東京オペラシティコンサートホールで、また'16年3月にはサントリーホールで、自らの指揮で自作
オーケストラ作品のコンサートを開催。同年「映画音楽太郎主義～サウンドトラックの舞台裏～」を全音
楽譜出版より上梓。2018年3月、MANGA SYMPHONY「〇」(作画・奏画:浦沢直樹、作曲・指揮:岩代
太郎、管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団)を世界初演。また同年8月～9月、自らの企画・原作・音楽に
よる、演劇と音楽のあたらしいカタチの舞台、奏劇「ライブ・コンチェルト」を紀伊國屋ホールにて公演。
9月には奏劇「ライブ・コンチェルト」コンサートを紀尾井ホールにて開催。映画「FUKUSHIMA
50」において、IMFCA 2020 第17回国際映画音楽批評家協会賞「BEST ORIGINAL SCORE
FOR A DRAMA FILM」部門最優秀賞を受賞。2022年12月には奏劇第2弾となる「Trio～君の
歌が聴こえる」を自身の企画・原案・作曲・演奏でよみうり大手町ホールで開催。2023年7月には奏
劇第3弾「メトロム・デュエット」をよみうり大手町ホールにて公演。

また'13年東日本大震災の復興支援事業音楽プロジェクト「魂の詩」や、'21年新型コロナ感染拡大
に際しての音楽啓蒙活動プロジェクト「Kizuna Piano」、さらには'22年NPO法人「オトブミ集～
絆」を立ち上げ、次世代を担う若者たちへの「心の栄養」「心の支え」となるコンテンツ制作にも取り
組むなど、社会貢献活動も積極的に行っている。

2006年より東京都交響楽団理事。

PROGRAM NOTE

F.メンデルスゾーン(1809 - 1847)

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64

極貧から身をおこし、カントの論敵と目されるほどの哲学者となった祖父、銀行家として成功した父。フェリックス・メンデルスゾーンはこのユダヤ系一家の三代目として生まれ、英才教育を受けて、ゲーテを驚嘆させたほどの神童に成長する。13歳の1822年にはニ短調のヴァイオリン協奏曲も書いているが、一般にメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲といえば、ホ短調の本作を指す。この曲はライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団常任指揮者が在任中の1838年に、同団の名コンサート・マスター、フェルディナント・ダーフィット(1810-1873)のために着想し、中断期間を経て1844年9月16日に完成した。古典的な形式美とロマンティックな情感を兼ね備えた魅惑的な逸品で、ダーフィットの助言も反映されて華麗な名人芸もふんだんに盛り込まれている。第1楽章のカデンツァ(即興的な独奏部分)を従来の再現部の終わりではなく展開部と再現部の間に持ってきた点と、各楽章の独立性を保ちながらも全曲切れ目なしに演奏するように書かれている点が大きな特色だ。ことに、カデンツァを楽章半ばに置く手法は後世の作曲家たちに多大な影響を与えることになった。1845年3月13日のダーフィット独奏による初演時には、健康を損ねていたメンデルスゾーンに代わって副指揮者のヴィルヘルム・ゲーゼ(1817-1890)が指揮して大成功を収めた。

第1楽章:アレグロ・モルト・アパシオナート、ホ短調、2/2拍子、ソナタ形式。1小節半の弦の分散和音伴奏にのって、ソロが甘くやるせない第1主題を歌い出す。ト長調の温和な第2主題はフルートとクラリネットの4重奏に始まりソロに引き継がれる。展開部と再現部の間に作り付けのカデンツァを置いたのち、木管の第1主題から再現部に入り華麗なコーダで楽章を閉じる。

第2楽章:アンダンテ、ハ長調、6/8拍子。3部形式。第1楽章終わりからファゴットのシの音の持続によって切れ目なしに入る。9小節目からソロが甘美な主題を歌いだし、オーケストラは静かに伴奏する。愁いを帯びた中間部を経て主部が再帰する。

第3楽章:序奏はアレグレット・ノン・トロppo、ホ短調、4/4拍子。主部はアレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ、ホ長調、4/4拍子。むせび泣くような序奏主題は第2楽章中間部の旋律に由来する。突然、ティンパニと管のファンファーレが静けさを破り、ソロが澁刺とした主題から登場して技巧を駆使しながら熱狂を高める。展開部では新しい主題も扱われ、再現部を経て華やかなコーダに至り力強く全曲を結ぶ。

M.ムソルグスキー(1839 - 1881)

組曲「展覧会の絵」(M.ラヴェル編)

ロシア5人組の一人モデスト・ムソルグスキーは1874年春、前年に没した友人の画家ガルトマン(1834-1873)の遺作展に出掛け、10点の絵画の印象による10曲のピアノ小品を書き、会場内のそぞろ歩きを表現する「プロムナード」でつないで組曲にまとめた。このピアノ組曲は彼の存命中には出版されず、1886年に友人リムスキー=コルサコフ(1844-1908)が校訂版を出版したが、それも注目されなかった。だが、1922年に指揮者クセヴィツキーの依頼を受けたモーリス・ラヴェル(1875-1937)が編曲し、同年10月にクセヴィツキーが初演したオーケストラ版は大成功を収めた。

[プロムナード I] 高らかなトランペットのソロから鮮烈に始まる。5/4拍子と6/4拍子が頻繁に交代する。
[第1曲<小人>] 山奥の地底で宝を守る地の神グムのこと。木管と弦がグムの素早い動きを表現する。
[プロムナード II] ホルンと木管楽器が対話する。
[第2曲<古い城>] 中世イタリアの古城。吟遊詩人の歌の調べをアルト・サクソフォンが奏する。ファゴットの保続する嬰トの音が幻想的な雰囲気醸す。

[プロムナード III] トランペットとトロンボーンが主奏する。

[第3曲<テュイルリー>] パリのテュイルリー公園で遊ぶ子どもたちの様子。

[第4曲<ビドロ>] ビドロとはポーランド語で牛の集団または牛車のことだが、苦役に耐えて働く農奴の姿を象徴しているとも解釈される。2拍子のリズムにのせてチューバの高音で主奏される曲は徐々に音量をあげてオーケストラ総奏でクライマックスを築く。

[プロムナード IV] 木管楽器による短調のプロムナード。

[第5曲<卵の殻をつけた雛鳥の踊り>] 卵から孵ったばかりの雛鳥たちのせわしない踊り。

[第6曲<サミュエル・ゴールデンベルクとシュミユイレ>] 低音金管楽器が金持ちのサミュエル・ゴールデンベルクの威圧的な話しぶりを、トランペットの高音が貧乏なシュミユイレの早口で卑屈な話しぶりを演じる。

[第7曲<リモージュの市場>] フランス中部の町リモージュの市場で主婦たちがおしゃべりに興じるありさまが描写される。ホルンから始まる。

[第8曲<カタコンブ>] 弾圧時代のキリスト教の地下墓場カタコンブを描く。

[<死せる言葉による死者との対話>] プロムナードの主題による変奏曲。

[第9曲<鶏の足の上に立つ小屋>] 鶏の足の上に立つ小屋に住むとされるロシア民話の妖婆バーバ・ヤーガが、ほうきにのって跳梁するさまが荒々しく描かれる。

[第10曲<キーウの大門>] 威厳あるトランペットの主題が全オーケストラへと渡され、その後、クラリネットとファゴットがロシア正教の賛美歌風の静かな主題を奏でる。最後は教会の鐘も鳴りわたって荘厳な雰囲気うちに全曲を結ぶ。

[萩谷 由喜子]

PROFILE



広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra (管弦楽)

国際平和文化都市“広島”を拠点に“Music for Peace ～音楽で平和を～”を旗印として活動するプロオーケストラ。2024年4月からクリスティアン・アルミンクが音楽監督に、徳永二男がミュージック・アドバイザーに就任。下野竜也が桂冠指揮者、秋山和慶が終身名誉指揮者を務める。1963年「広島市民交響楽団」として設立、1970年に「広島交響楽団」へ改称。学校での音楽鑑賞教室や社会貢献活動にも積極的に取り組み、地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。1991年の「国連平和コンサート」(オーストリア)

での初の海外公演以降、チェコ、フランス、ロシア、韓国、そして2019年にはポーランド・ワルシャワでの「シヨパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に招かれ、ヒロシマのメッセージを音楽で海外へも発信。これまでに「文化対話賞(ユネスコ)」「広島市民賞」「ENEOS音楽賞」他受賞歴多数。

公式Web <http://hirokyo.or.jp/>



神尾 真由子 Mayuko Kamio (ヴァイオリン) ローム ミュージック フレンズ<2001、2002年度奨学生>

4歳よりヴァイオリンをはじめ。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。これまで里屋智佳子、小栗まちな、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロン各氏に師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。東京音楽大学教授。

©Makoto Kamiya



©Masaaki Tomitori

広上 淳一 Junichi Hirokami (指揮)

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。これまでノールショピング交響楽団、リンブルク交響楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、コロンバス交響楽団のポストを歴任。フランス国立管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、モンテリオール交響楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ウィーン交響楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団などへ客演を重ねる。現在、オーケストラアンサンブル金沢アーティストティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団広上淳一。また、東京音楽大学指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。



朝岡 聡 Satoshi Asaoka (司会)

横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業。テレビ朝日にアナウンサーとして入社し、各種スポーツ中継の他「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。1995年フリーとなったからはテレビ・ラジオ・CMの他、クラシックコンサートの企画構成や司会でもコンサート・ソムリエとして活動のフィールドを広げている。とくにオペラと古楽ではユニークな評論が注目を集めており、クラシックの語り部としても幅広く活動中。興味深い内容を軽妙な語り口で展開する独自の世界は、新しい芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。日本ロッセニ協会副会長。公益財団法人 日本音楽教育文化振興会理事。東京藝術大学客員教授。

■ ロームグループについて

ロームは、京都に本社を置く半導体・電子部品メーカーです。その製品は、自動車や産業機器のほか家電製品など、さまざまな電子機器に搭載され、技術革新を支えています。国内では、宮城、静岡、京都、滋賀、岡山、福岡、宮崎に工場を保有し、品質と信頼性に優れた製品をグローバルに供給しています。あらゆる企業活動を通じて文化の進歩向上に貢献することを目指しており、音楽支援活動をはじめとする事業以外の社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

そのひとつとして、ロームは50年間のネーミングライツ取得という形で「ロームシアター京都」の再整備にも協力しました。これまで京都で見ることのできなかった世界クラスの舞台公演が可能な最新の設備を導入しており、文化芸術の創造・発信拠点として、2016年のオープンから現在まで幅広く活用されています。



ローム株式会社



ローム・ワコー株式会社

■ 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションについて

ローム株式会社の創業者である佐藤研一郎(1931～2020年)は、かつてピアニストを目指していましたが、コンクールで思うような結果が出せず、その夢を諦め、ローム株式会社の前身である東洋電具製作所を設立しました。

しかし、その後も音楽を愛する気持ちを持ち続けた佐藤研一郎とローム株式会社が中心となり、1991年に公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションを設立しました。

ローム ミュージック ファンデーションは、音楽文化の発展と普及に寄与することを目的にさまざまな活動を行っています。特に若い音楽家の支援に力を入れ、奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、支援の形はさまざまです。ここでかかわった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は4,931名(2024年4月現在)にもものぼります。

また、音楽文化の普及に必要な聴衆の拡大のため、音楽をより身近に感じていただけるようなコンサートを開催、支援しています。



撮影:佐々木卓男

■ ローム ミュージック ファンデーションの事業について

音楽文化の発展



奨学援助

音楽を学ぶ学生に対して奨学援助を行い、若い人たちの学ぶ環境の充実に取り組んでいます。



ローム ミュージック ファンデーション スカラシップコンサート

現役または奨学金給付終了直後の奨学生によるコンサートを開催しています。



京都・国際音楽学生フェスティバル

世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いてフェスティバルを開催しています。



ローム ミュージック セミナー

ローム ミュージック フレンズが講師となり世界を舞台に活躍する音楽家を育成するセミナーです。

音楽文化の普及



ローム ミュージック フェスティバル

ローム ミュージック フレンズが一室に会す豪華フェスティバル。ローム・スクエアでは、関西の中学・高校の吹奏楽部によるコンサートも行っています。



ローム ミュージック チャンネル「KyotoxClassics」

京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けするコンサートを映像配信しています。

その他の事業や詳細については、ローム ミュージック ファンデーション 公式WEBサイトをご覧ください。



<https://www.rmfm.or.jp/jp/>

写真クレジット: *...撮影:大澤 正、他...撮影:佐々木卓男